

本定例会の正式な会議録は、市立図書館や市議会ホームページ、議会事務局などでご覧いただけます。



2次元コードを読み取ると、議員それぞれの全ての質問の様子をご覧いただけます。



子育ての見守りと支援について



創政クラブ 矢部 伸幸

**議員** 本市の小中学校・義務教育学校における学校校務員の配置状況について伺います。

**教育部長** 内部事務担当は市内全41校に1人ずつ、施設維持担当は1人が複数の学校を担当しているため全41校に対し32人が配置されています。

**議員** 本市では小学校給食の食材費については、物価高騰対策として予算を増額して対応していますが、幼稚園や認定こども園、認可保育所にも大きな負担になっていると考えます。各園の対応について伺います。

**福祉こども部長** 一部の園では食材費を抑えるなど対応に苦慮しており、多くの園で保護者から徴収する給食費を値上げせざるを得ない状況にあると考えています。

**議員** 学校施設の不具合の対処や不審者対策の観点から、校務員を全校に配置すべきと考えますが、市長の所見を伺います。

**市長** 校務員の全校配置は、児童

生徒の安全性向上や学校現場の負担軽減の面で大きな効果が期待できると考えていますので、積極的に進めていきたいと考えています。

**議員** 幼稚園、認定こども園などへの給食費助成について、昨今の物価高騰に鑑みると増額すべきと考えますが、所見を伺います。

**市長** 小中学校の給食費の完全無償化を実施しており、予算上、現行のままでお願いしたいと考えています。



■その他の質問  
▷エアリススケートパーク太田の現状と今後について



地域包括支援センターの機能強化と持続可能な地域包括ケア体制について



弦音会 清水 梨花

**議員** 高齢化社会を見据えた地域包括ケア体制のあり方や支援体制強化の方向性について伺います。

**健康医療部長** ICT活用による情報共有と業務の効率化を進めることで専門職の負担軽減とスキル向上が重要です。また、住民同士の支え合い機能の強化や医療、介護、生活支援の役割分担の最適化を行うことが地域全体で支える持続可能な体制構築に重要な要素と考えています。

**議員** 今後の地域包括支援センターのあり方について、市長に所見を伺います。

**市長** 地域包括支援センターが果たす役割は、高齢者支援にとどまらず、暮らしやすい地域づくりのため、地域住民やさまざまな関係機関との連携強化が求められます。また、地域包括ケアシステムの強化も重要であり、地域全体で高齢者を支え合う体制を作っていきたいと考えています。

**議員** クラウドファンディングなど、

歳入以外にも資金を確保する方法を検討するほか、ボランティア活動やNPOとの連携強化によりコストを抑え、サービスの質を維持することができると考えますが、所見を伺います。

**市長** 財政面も含め、地域を支えるためには何が必要かをしっかりと考えていきたいと思っています。



■その他の質問  
▷太田ブランドの創出に向けた観光施策と地域イベント・情報発信戦略について  
▷渋滞緩和と公共交通の充実を通じた暮らしやすい都市形成について



2026年度予算編成方針について



日本共産党 水野 正己

**議員** 財源不足が懸念される中で、の予算編成について、市長に伺います。

**市長** 真に必要な予算は削減できません。全ての施策や事業を再検証し、選択と集中により、持続可能な財政基盤を構築し、公平性を鑑みて削減できるところは削減し、力を入れるべきところには投資したいと考えています。

**議員** 市長マニフェストの実行では、市民や業者、農家を守り育てる施策を後退させないことが前提です。予算が多額になるもので待てるものは待っていただくことも必要です。前市長時代の施策で無駄なものは削るべきですが、所見を伺います。

**市長** 当然市民を守らなくてはなりません。その中で選択と集中として、先を見据えた産業政策、地域公共交通、デジタル化の3本柱に集中して投資したいと考えています。

**議員** 掛川市では財政が厳しい時だからこそ、人づくりに金をかけて財政力指数1を超える優等生に変わりました

が、所見を伺います。

**市長** 人づくりは非常に重要であり、必要なものは引き続き取り組んでいきたいと考えています。

**議員** 予算を有効に使うため、芸術学校に高度なスキルを持った職員を配置すべきですが、所見を伺います。

**市長** 今後も子どもたちが本市の文化を担っていく機会をしっかりと探求していきたいと考えています。



■その他の質問  
▷藪塚本町地区における中央公民館の移転、保健センター廃止など公共施設再編について



多文化共生の推進について



志友会 八長 孝之

**議員** 多文化共生社会を築くためにはどのような取り組みが必要であるか、今後の方向性について伺います。

**企画部長** 多文化共生の推進には、言語の違いによる課題や文化への理解が重要です。交流の場を広げ、相互理解を深める機会を創出するなど、引き続き取り組んでいきたいと考えています。



**議員** 多文化共生社会の基盤となる踏み込んだ英語教育、特に話せる英語力を育成するための取り組みや今後の展望について、教育長に所見を伺います。

**教育長** 国や県の動向を踏まえ、本市独自の工夫を加えながら、話せる英語

力を身に付けられる教育環境の整備に努めたいと考えています。

**議員** 多文化共生の推進には地域住民の協力が必要不可欠ですが、地域への翻訳機の貸し出しを実施できないか、市長の所見を伺います。

**市長** 言語の違いによるコミュニケーション不足を解消するためのツールの活用方法については、今後も情報収集に努めていきたいと考えています。

**議員** 地域コミュニティづくりの入り口として、また地域と外国人をつなぐ重要な媒体として、地域情報誌を多言語化していく必要があると考えますが、所見を伺います。

**市長** 本市では、広報おたの多言語ツールとしてカタログポケットを導入し、10言語で発信しています。また、一部地区の行政センターだよりも多言語で閲覧可能ですので、情報周知をさらに進めたいと考えています。

■その他の質問  
▷本市の組織体制について